



医療機関で検診をご希望の方へ

乳がん検診のご案内

◆対 象 者 大紀町に住所を有し、令和7年4月1日時点で40歳以上の女性
ただし、今年度大紀町が実施する集団がん検診で乳がん検診を受ける方は除く

◆検診期間 令和7年8月1日（金）～令和8年3月末日（年末年始の休診日を除く）
※令和7年度から8月開始になりました！

◆持 ち 物 受診券(ハガキ)、
マイナ保険証、資格確認書、健康保険証(有効期限内)のいずれか
検診料金1,300円

◆留 意 点

- 検診の際は、必ず受診券(ハガキ)を受付に提出してください。
- 受診券を紛失した場合は、健康福祉課保健師までご連絡ください。
- 診療時間等変更になる場合がありますので、事前に医療機関にご確認ください。
- 医療機関には必ず予約し、ご都合が悪くなった場合はキャンセルをしてください。
- 予約の際は、「大紀町」「受診券利用の検診」「視触診の希望の有無」の3点を伝えてください。
- 問診票は医療機関にあります。
- 大紀町が発行した受診券を利用して検診を受けない場合は、健康福祉課保健師までご連絡ください。
- マンモグラフィ検査を受けられない場合がありますので、裏面の「乳がん検診を受診される方へ」をお読みください。
- 発熱（37.5℃以上）や咳など感染症の疑いがある方は、検診を延期してください。
- 乳がん検診は、集団検診または個別医療機関での検診のいずれか1つを受診できます。
- 重複受診した場合は、全額自己負担となりますのでご注意ください。

～ 伊勢地区の医療機関での検診をご希望の方へ ～

松阪地区と伊勢地区の医療機関では、検診の時期が異なります。
※受診券は松阪地区・伊勢地区とも共通ですので、受診する日まで保管してください。

●伊勢地区の乳がん検診時期 令和8年1月～令和8年3月末日

【 松阪地区医療機関 】 乳がん検診医療機関

検診期間：令和7年8月1日（金）～令和8年3月末日（年末年始の休診日を除く）

〔五十音順〕

医療機関名	住所／電話番号	予約	診療時間	休診日
済生会松阪総合病院 (健診センターあさひ)	松阪市朝日町一区 15-6	健診 センター 要予約	<予約受付時間> 月～金曜日 午前 9:00～午後 4:00 <検診受付時間> 火・木・金曜日の午後 詳細は予約時にお問い合わせください ※視触診は人数制限がございます	土曜 日曜 祝日
	(健診センターあさひ) TEL:0598-52-6052(直通)			
桜木記念病院	松阪市南町 443-4	要予約	<予約受付時間> 月・火・水・金曜 午後 2:00～午後 6:00 <検診時間> 詳細は予約時にお問い合わせください ◎触診はありません	木曜午後 土曜午後 日曜 祝日
	TEL:0598-21-5522(代表)			
松阪地区医師会 松阪市健診センター ピーす (松阪市民病院) <検診実施期間> 8月1日～2月27日	松阪市殿町 1550 (松阪市民病院敷地内)	要予約	<予約受付時間> 月～金曜日 午前 9:00～午後 4:00 <検診受付時間> 詳細は予約時にお問い合わせください	土曜 日曜 祝日
	TEL:0598-23-7563			
松阪中央総合病院	松阪市河井町字小望 102	要予約 (お早めに)	<予約受付時間> 月～金曜日 午後 12:30～午後 3:30 <検診受付時間> 詳細は病院から郵送される案内文にてご確認ください ◎子宮頸がん検診同時受診可 ◎触診はありません	土曜 日曜 祝日
	<検診実施期間> 8月1日～2月27日 TEL:0598-21-5252(代表)			

*****裏面もご覧ください*****

乳がん検診を受診される方へ

＊＊受診前のお願い＊＊

以下の症状がある方、その他体調がすぐれない方は、感染症対策のため検診をお控えください。

- ・体温が37.5℃以上ある場合
- ・せき・のどの痛みなどの症状がある場合
- ・強いだるさや息苦しさがある場合

乳がんの現状

乳がんは、わが国の女性のがん死亡の上位に位置し、生涯乳がんを患う日本人女性は、現在9人に1人と言われており、30歳代から増加しはじめ、40歳代後半から50歳代前半にピークを迎え、比較的若い世代で多くなっています。

検診の有効性

がん検診の目的は、早期発見によりそのがんで死亡する可能性を減少させることです。

乳がん検診では、**40歳以上の女性は2年に1回のマンモグラフィ検査が有効とされています**。マンモグラフィ検査は、石灰化のある乳がんの発見に適しています。しかし、どのように優れた検査でも100%の精度ではありません。ごく初期の段階では、しこりもわからないほど小さく、痛みや体調不良などの自覚症状もないことが多く、がんが発生した時点から一定の大きさになるまで検査で発見することはできません。また、本来生命に影響しない、微小でその後も進行がんにはならないがんが見つかる場合もあります。がんではないのに、「要精密検査」と判定され、精密検査を行ってもがんが見つからず、結果的に不必要な精密検査や治療を受けなければならない場合も多くあります。

乳がん検診(マンモグラフィ検査)を受診できない方

- ①妊娠中または妊娠の可能性がある方（胎児へのマンモグラフィ検査の安全性が証明できないため）
- ②ペースメーカーを装着されている方（ペースメーカーに圧力がかかり破損する可能性があるため）
- ③豊胸術をされている方（所見を十分に映し出せないことや、シリコンパック等が破損する可能性があるため）
- ④胸部にリザーバー（ポート）の装着やV-Pシャントカテーテルを施行している方
- ⑤授乳中の方

乳がん検診(マンモグラフィ検査)受診前に必ずかかりつけ医にご相談いただきたい方

- ①乳がん等で医療機関において治療中の方及び経過観察中の方
- ②1か月以内に胸部や上腹部の皮膚を切開したり、縫合したりする手術をした方は、かかりつけ医に創部に圧迫を加えても問題ないかご相談ください。
- ③ワーファリン等（血液を固まりにくくする薬）を服用している方、または出血すると血が止まりにくい方はマンモグラフィ撮影時の乳房の圧迫で内出血をきたすことがあるため十分理解のうえ受診してください。

乳がん検診(マンモグラフィ検査)受診の際の注意事項

- ①制汗剤やボディクリーム等は病変と間違えて映し出す可能性がありますので、何もつけずにご受診ください。
- ②受診前に湿布・磁石入り絆創膏・カイロ・ネックレス・大きめのイヤリング等ははずしてください。
- ③受診前に、長い髪は後ろにまとめてください。
- ④受診当日は、着脱しやすい服で受診してください。
- ⑤以下の方は検査ができてでも判定不能となる可能性があります。
 - ・圧迫して母乳が出るような断乳して間もない方
 - ・乳腺の厚さが非常に薄い方

検診結果について

検診結果は、1.精密検査不要、2.要精密検査（乳がん疑い）、9.判定不能のいずれかの区分で報告されます。マンモグラフィ検査（視触診併用）による乳がん検診を受けると、受診者の約8%の方が「要精密検査」となり、精密検査を受けた方の中には乳がんと診断される方がいます。「要精密検査」という結果を受け取った場合には、必ず精密検査を受けてください。

早期発見・治療のためにも、**40歳以上の女性は2年に1回は検診を受けてください。**

ただし、乳がんを放置しているとリンパ節や他の臓器に転移しやすいため、少しでも違和感があれば、次の乳がん検診を待たずに医療機関（外科、乳腺外科）を受診してください。

精密検査の方法

マンモグラフィ検査や乳房超音波（エコー）検査で、病変が疑われた部位を詳しく観察します。乳房MRI検査や乳房CT検査で病変が疑われた部位を撮影したり、造影剤を注射して撮影することもあります。穿刺吸引細胞診などでは、疑わしい病変が見つかった場合、細い注射針を刺して細胞や組織を採取し悪性かどうかを調べます。

精密検査が受けられる医療機関

精密検査を受けられる医療機関については、三重県ホームページをご参照ください。なお、受診可能かどうかを事前に病院へお問い合わせのうえ、受診してください。

三重県ホームページ：『三重県がん検診精密検査医療機関登録制度について』
<https://www.pref.mie.lg.jp/KENKOT/HP/000118956.htm>



＊検診は各医療機関と自治体が連携して行っています。検診結果や精密検査の結果については、厚生労働省等の指針・ガイドラインに基づき、精度管理等に必要な情報を関係機関等と共有します。